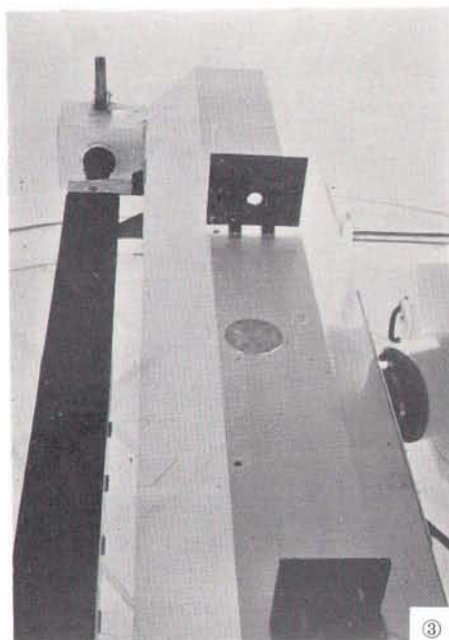
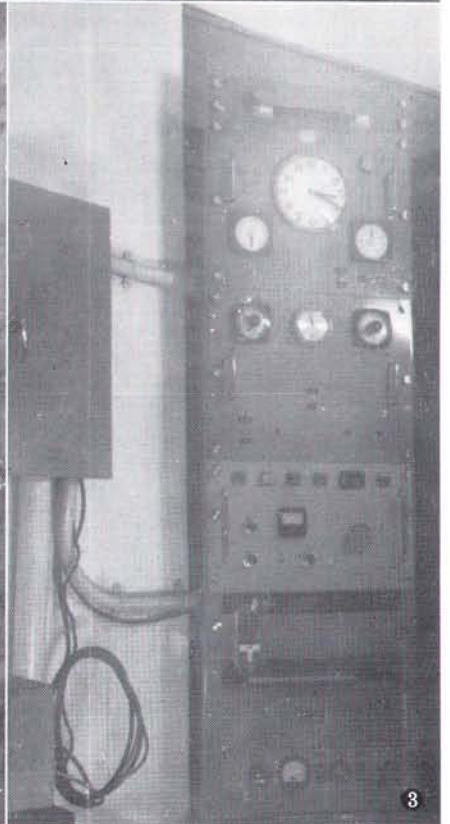
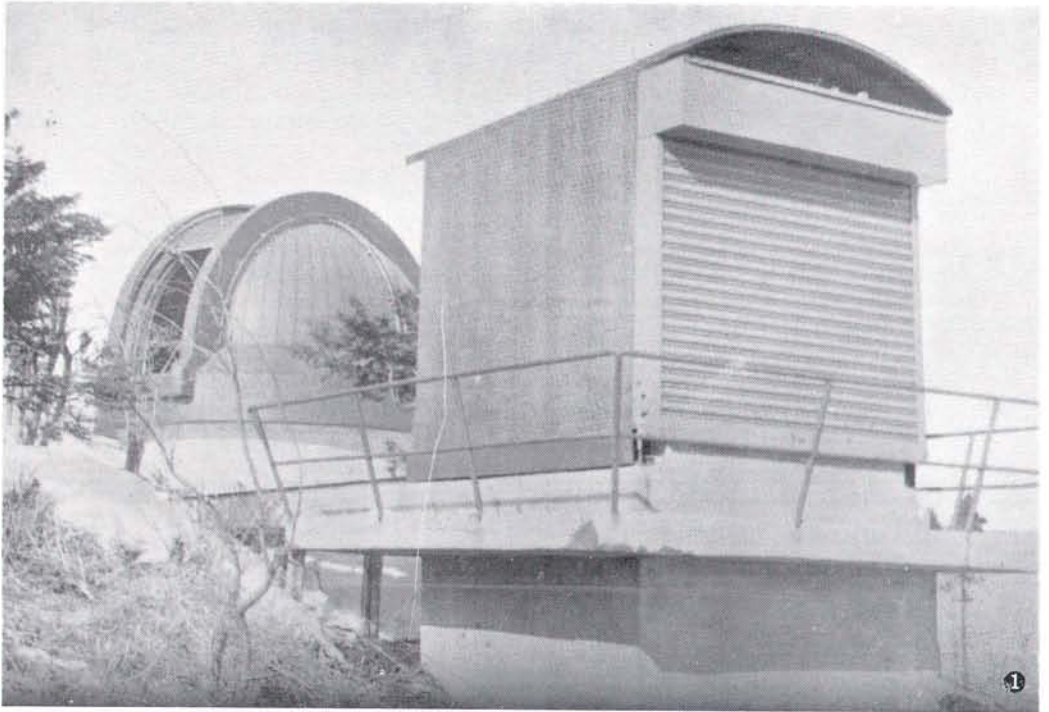


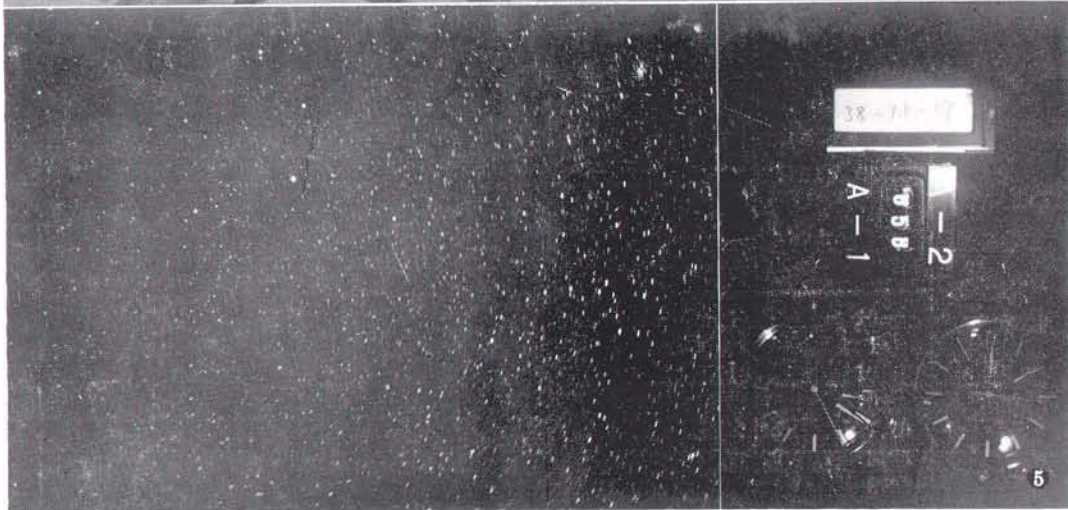
### ハレアカラ太陽観測所

1. はハレアカラ太陽観測所開所式の光景。  
2. 及び 3. 上の写真のドーム内に設けられたKコロナメーター。金属製の八角の筒が赤道儀式に据付けられ、その八個の表面に種々の装置が固定されるようになっている。

これ等の写真は東京天文台の古畑正秋氏撮影のもの。原版は皆カラー写真である。なお、古畑氏が送付された新聞の切抜きによれば、ハレアカラとは“太陽の家”という意味だそうである。この観測所の所長はWalter H. Steiger 博士。







## 堂平山の自動流星写真儀

1. は 91 cm 反射鏡室の南約 50 m のところにある自動流星写真儀室。使用時は手前南側の軽量シャッターを上げ、家ごとレールで北側へ開く。 2. はカメラの前方から見たところで、4 個のレンズと回転シャッターが見える。 3. は 91 cm 鏡ドーム内におかれた制御盤。 4. はカメラ内部を横から見たところで暗箱内の左右両端に近いところに、フィルムのリール、中央の時刻焼込装置の左右が二個の撮影部分で、各々の下部に圧板が見えている。レンズは上方のボックス内にあるが、この写真では見えない。 5. は、このフィルムの一コマで、星野中央部に流星像があり、(この流星は本誌 3 月号表紙のスペクトルのと同じものである)。右は露出の始終を示す時計部分である。